

国際拠点空港の整備は国家の浮沈をかけたプロジェクトである。世界では、各国が自国の更なる発展と次代への豊かさの継承を願い、大規模な空港の整備に力を注いでいる。

一九九四年に、一本の滑走路で開港した関西国際空港は、既に二億人を超える旅客が行き交い、我が国の輸出入航空貨物の四分の一を支えるなど、世界に開かれた空港として、重要な役割を担ってきた。

その間、米国同時多発テロやSARSなど予期せぬアクシデントが航空需要を直撃し、近年では、航空機燃料の高騰が航空会社の路線再編を余儀なくしている。そうしたなかで、関西国際空港株式会社は、三カ年にわたる経営改善計画を通じて、初の単年度黒字を早々に達成し、十七年度の通期決算でも、経常利益を確保した。

また、内外に向けたエアポート・プロモーションの効果とも相まって、この夏の国際線の計画便数は、過去最高の週七百十便、七十一都市、国内線は一日五十九便、二十都市へとネットワークを拡大し、新規就航や復便、増便が活発化している。

国際航空貨物については、取扱量が堅調に推移し、運送事業者の貨物上屋の需要も旺盛であることから、国際貨物ターミナル地区では、新たな上屋整備が着々と進められている。

このような下で、いよいよ二〇〇七年八月、関西国際空港は、日本初の長距離滑走路を二本有する二十四時間フル運用可能な国際拠点空港として、
次

この優れたインフラを十二分に使いこなせるよう、あらゆる関係者が最大限の努力をしていかねばならない。

地元としても、関係地方公共団体と経済界が一体となって、これまで培ったノウハウを活かし、関西国際空港株式会社と共に、エアポート・プロモーションをはじめ、集客・利用促進、就航促進に重点を置いた様々な方策を引き続き展開していく。

国におかれては、中長期的な視点から、航空需要を見通しつつ、国際拠点空港にふさわしい機能の充実と経営基盤の強化が図られるよう、左記の点を強く要望する。

記

一 二〇〇七年八月二日の二期平行滑走路の限定供用が円滑かつ確実に実施されるよう、所要の措置を講じられたい。

二 関西国際空港の特長である「際内乗り継ぎ機能」を一層強化し、国際線と連動した羽田線をはじめとする国内線ネットワークの更なる充実が図られるよう、適切な措置を講じられたい。

三 航空貨物輸送の需要に適切に対応し、所要の施設整備など、関西国際空港における物流機能のより一層の強化を図り、もって地域の国際物流の進展に資するよう、適切な措置を講じられたい。

四 関西国際空港が利用者満足度の高い国際拠点空港として、その役割を十分発揮できるよう、経営基盤の安定とそれに伴う空港利用コストの低減などについて、支援方策の充実に努められたい。

平成十八年八月二十三日

関西国際空港全体構想促進協議会